

1. 研究目的

本研究は「親子のコミュニケーションツールとなる絵本を制作する」ことである。従来、絵本とは読み聞かせることで親から子供へ愛情を伝えるためのツールであったが現在では、用途の幅を拡げ、読み聞かせるという事が「前提」では無くなってきている。本研究では、読み聞かせを前提とした絵本を制作すると共に、従来の絵本には無い新しいアプローチを考え、より良い親子の時間を過ごすツールとなりうる提案を行いたい。また、新しいアプローチとしてアルバムの要素を絵本に追加し、アルバム作りのきっかけにもなりうる提案を行いたい。

2. 調査と分析

以下の調査結果を元に制作を行った。

(1) 絵本は「読み聞かせ」が重要な要素

子供達は「耳で聞く」ことで、多くの言葉に出会う事ができ、より深い内容を理解できる。また、親から子へ愛情を伝えることができる。

(2) アナログアルバムの減少傾向

デジタルフォトフレームなどを使用すれば簡単に代わりが出来てしまうことが原因だと考えた。しかし、いつかは制作したいという声もあり、「一歩が踏み出せない」という状況が見えてきた。

3. コンセプトの立案

上記の調査結果から「コミュニケーションツールとしての機能」、「手軽にできるアルバム要素を追加した特別な本」という二点を軸にした絵本を制作する。また、この二点から「一緒に作り上げていくたった一つの宝物」というコンセプトを立案した。親子で一冊の絵本を作り上げていくことで制作過程も思い出となり、さらに自身の写真が絵本の一部として組み込まれることで、世界でたった一つの宝物となると考えた。

4. デザイン展開

アルバム要素とカスタマイズ要素を追加した絵本を提案する。親子で遊びながら制作していき、一冊の絵本集となるような形式を採用した。①リング式のファイルに絵本を追加していくという形を取ることのできる好きな物語を子供と一緒に選べ、ファイリングする順番も好みに合わせて変える事ができる。②物語の内容も自由に組み替えられる形になっている。(例:動物園に行く→好きな動物を選んでファイリン

グ出来る)また、組み替えられるページには短いお話があり、絵と文章を見ながら親子で協力して正しいお話に並び変えていく。(例:動物園に行く→ウサギのお話→正しく並び変える)③写真を貼れるページを設ける。このページは物語にあったイラストの中に写真を貼れるような形式を採用。④自分で絵や文字を書き込んでいくページを設ける。

5. 完成図



絵本セット

アルバムページ

6. 結論

本研究について二回の検証を行った。一回目は幼稚園へ行き絵本の制作を実際に子供たちと一緒にいき、二回目では親子による絵本の制作を観察した。検証項目は①絵本の制作過程でコミュニケーションはとれるか②絵本の内容は相応しいか③特別な本になるか、この3つに主眼を置いた。

・絵本の制作過程で十分なコミュニケーションを取ることができた。→子供達から積極的に声をかけてくれ、子供たちと一緒に制作することができた。また、幼稚園では担当してくださった先生に「子供とお話しながら作れて良い」という感想を頂いた。

・絵本の内容は親子で作るという前提条件の中では十分適していた。→並び変えの際には大人が上手く子供を誘導することでコミュニケーションを取りながら制作できた。

・その子にとっての特別な本となった。→制作後、「○○の絵本は？」という声が多数上がった。

以上のような実証を得ることができた。また、親子で実際に使用したときも同様の結果が得られたことから、目的とコンセプトを達成したと言える。

文献

[1] 川端 強, 小冊子『絵本のある子育て No21』, こどもの本の童話館グループ, 2012

[2] 川端 強, 『絵本のある子育てについて』, こどもの本の童話館グループ

http://www.douwakan.co.jp/group/kosodate/bn_kosodate
(参照 2013-2-17)